

## 2月18日(火) 学校生活

### 【子どもの育ちは子どもが主体】

大人は、子どもたちが「〇〇になってほしい」と願いながら目標に向かって取り組んでしまいがちです。もちろんそれは、間違っていない。ふとした時に、少しだけ立ち止まって考えてみることもよいかもしれません。なぜなら、子どもの育ちは、成長しようとする子どもが主体だからです。その成長を手助けするのが大人だと思うからです。必要以上に手を出すと子どもの成長を、生きる力を損ねてしまうときもあります。ちょっとだけ振り返ってみましょう。



じっと寒さを絶え、春には人を幸せにする桜が咲き誇る花芽。種類によって[精神の美][豊かな教養][優れた教育]の花言葉があるようです。



登校する子どもたちの手には



雪と戯れる子どもたち



校門に小さな小さな雪玉

